

## 「21世紀の巨大地震を考えるー歴史から探る関西の地震」

ー 地震考古学に関する話題提供、実演など ー

日時：2016年3月12日(土) 14:00～15:30

場所：池田商工会議所 2階会議室 D

〒563-0025 大阪府池田市城南1丁目1番1号

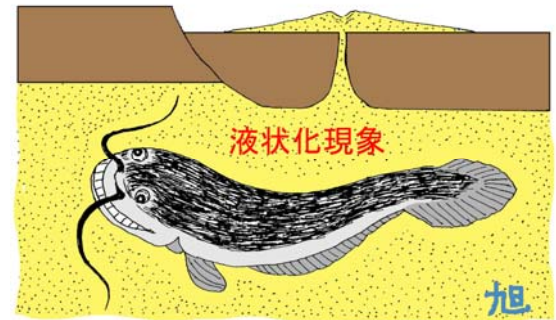
参加費：無料 (ドリンク、お菓子をご用意)

対象：一般、高校生以上

定員：40名 (〆切:3月7日(月) ※定員になり次第締切り)

主催：国立研究開発法人産業技術総合研究所 関西センター

講師：産業技術総合研究所 活断層・火山研究部門 寒川 旭 名誉リサーチャー



近々、起きることが懸念されている南海トラフの巨大地震ですが、最近の2千年間について、発生の歴史が概ねわかっています。江戸時代では1707(宝永4)年と1854(安政元)年の2回ですが、大阪平野では激しい揺れが長く続いて多くの家屋が倒壊しました。この時、大阪湾に押し寄せた津波が、道頓堀などの水路をさかのぼって、大坂の市街地の一部が泥水に被われました。一方、関西圏には活断層が多く、大きな地震を引き起こしています。豊臣秀吉の時代である1596(慶長元)年には、京都から大阪・神戸を経て淡路島まで続く活断層によって「伏見地震」が発生しました。そして、1995(平成7)年には淡路島の野島断層が「阪神・淡路大震災」を引き起こしています。

今年2011年3月11日の「東日本大震災」から5年目です。想定外と言われた巨大地震ですが、実は、同じような地震が平安時代前期の869(貞観11)年に起きていました。そして、1000年余の年月を隔てた9世紀と現代を比較すると、地震の起こり方がよく似ているのです。このように、古文書・日記などの記録や、考古学の遺跡で見つかった地震痕跡から過去の地震が復元できて、多くの知識が得られます。これをもとに、やがて来る関西圏の巨大地震について考えます。

※地震の揺れで地盤が溶ける「液状化現象」について簡単な実習を行います。コーヒーやクッキーを食べながら気楽に聞いて頂ける講演ですので、是非ご参加下さい。

内容：

- ・ 南海トラフの巨大地震とは？
- ・ エキジョッカーを使った液状化現象による噴砂の実習
- ・ 活断層とは？(伏見地震を中心に)
- ・ エッキーを使った液状化現象による抜け上がりの実習
- ・ 9世紀と現代の関係
- ・ ナマズと地震の関係

【詳細・申込み先】 <https://unit.aist.go.jp/kansai/>

【問い合わせ先】産業技術総合研究所関西センター(大阪府池田市緑丘1-8-31)

産学官連携推進室 [kansai-cafe-ml@aist.go.jp](mailto:kansai-cafe-ml@aist.go.jp) TEL:072-751-9606



※ なお、サイエンスカフェの様子は、動画や静止画を撮影して、産総研の広報活動に利用いたします。